

高校生におけるアパシー傾向と学校ストレッサー，自尊感情との関連

渡部 智行

(広島文教大学人間科学部心理学科)

研究の目的

本研究では，高校生におけるアパシー傾向の各側面がストレス反応を予測していることを示した渡部（2025）の研究に引き続き，それらに学校ストレッサーや自尊感情といった側面も変数に加えた調査を行い，高校生の精神的健康とその基底因について探索的に検討する。

方法

中国地方の高等学校に所属する2年生191名に対して Web での質問紙調査を行った。欠損値を除いた160名を分析対象とした。測定尺度は，①多次元アパシー傾向測定尺度（渡部，2021）②心理的ストレス反応尺度（SRS-18）（鈴木他，1997）③高校生用学校ストレッサー尺度（SSS）（三浦・川岡，2008）④Rosenberg 自尊感情尺度日本語版（桜井，2000）であった。

結果と考察

測定尺度間の相関を検討したところ，ストレス反応は学校ストレッサーと中程度の正の相関，自尊感情と中程度の負の相関が見られたが，アパシー傾向とは非有意もしくは弱い正の相関が示された（Table 1）。

Table 1 ストレス反応・自尊感情・アパシー傾向・学校ストレッサーの相関

	ストレス反応尺度				学校ストレッサー	自尊感情
	SRS-18全体	抑うつ・不安	不機嫌・怒り	無気力		
アパシー全体	.278 **	.281 **	.145 *	.329 **	.197 *	-.238 **
アンヘドニア	.113	.095	.101	.114	.040	-.199 *
時間拡散	.193 *	.176 *	.122	.228 **	.142	-.081
強迫的適応志向	.218 **	.248 **	.074	.269 **	.170 *	-.213 **
学校ストレッサー	.600 **	.513 **	.574 **	.555 **		-.197 *
自尊感情	-.428 **	-.431 **	-.293 **	-.440 **	-.197 *	

* $p < .05$ ** $p < .01$

渡部（2025）において高校生を対象としたストレス反応とアパシー傾向との相関を検討した際にはいずれの変数間も有意，かつ中程度の相関が見られた変数も多くあり，その結果とは異なるものとなった。本研究においては，調査協力者の負担軽減の観点から，21項目からなる多次元アパシー傾向測定尺度を因子負荷量上位3項目ずつ用いた9項目の尺度として用いたため，尺度構造に変化が生じた可能性も考えられる。

次に，学校ストレッサーの各側面とストレス反応・アパシー傾向・自尊感情との相関を検討した結果，ストレス反応の各側面とは有意な相関が見られ，自尊感情とは「学業」「友人」と有意な弱い

負の相関が見られたが，アパシー傾向との有意な相関は部分的かつ弱いものであった（Table 2）。

Table 2 SSSの低位尺度とストレス反応・アパシー傾向・自尊感情との相関

	教師	学業	友人	部活	校則
ストレス反応全体	.241 **	.575 **	.483 **	.342 **	.321 **
抑うつ・不安	.178 *	.513 **	.469 **	.271 **	.252 **
不機嫌・怒り	.320 **	.480 **	.424 **	.349 **	.338 **
無気力	.168 *	.578 **	.429 **	.316 **	.292 **
アパシー全体	-.037	.259 **	.079	.097	.184 *
アンヘドニア	.065	.002	.029	-.002	.070
時間拡散	.051	.209 **	.083	-.027	.146
強迫的適応志向	-.140	.228 **	.039	.183 *	.130
自尊感情	.069	-.302 **	-.185 *	-.142	-.004

* $p < .05$ ** $p < .01$

続いて，ストレス反応の各側面を従属変数，ストレス反応と一定の相関が見られた学校ストレッサーの各側面と自尊感情を独立変数として，多変量重回帰分析を行ったところ，学業活動はストレス反応の各側面に有意な正の影響，友人との関係は抑うつ・不安と無気力に有意な正の影響，自尊感情はストレス反応の各側面に有意な負の影響を及ぼしていることが示された（Table 3）。

Table 3 ストレス反応の各側面を従属変数とした多変量重回帰分析

	抑うつ・不安	不機嫌・怒り	無気力	VIF
教師	.009	.157 *	-.010	1.783
学業	.310 **	.289 **	.392 **	1.248
友人	.269 **	.121	.156 *	1.808
部活	.024	.130	.077	1.248
校則	.040	.107	.103	1.808
自尊感情	-.285 **	-.176 *	-.281 **	1.905
R^2	.426 **	.374 **	.470 **	

* $p < .05$ ** $p < .01$

以上の結果から，学校ストレッサーの各側面の中では学業活動が最もストレス反応を予測することが明らかになり，高校生のメンタルヘルスの問題を考える鍵となることが示唆された。記述統計量の検討の結果からは，SRS-18とSSSの二尺度の中で「学業活動」は唯一床効果が見られなかった尺度であり，高校生において学業活動が実際上も大きなストレッサーとなっていることが推測される。また，自尊感情の低さもストレス反応を一定程度予測しており，心理面からの支援の必要性も窺い知ることができた。一方で，アパシー傾向についてはストレス関連尺度との関連性が低い結果となり，今後の追加調査および精緻な分析の余地が残された結果であったと言える。